

しんあい なる しんこうしや の みなさま！

わたしたち の よげんしや <sup>1</sup> が マディーナ に いじゅう して から、わずか いちねん はんご の こと でした。それは シャアバーン づき の さいご の ひ でした。さいかい の ぎむ を つげる、アル=バカラ しよう の つぎ の せつ が けいじ されました。

「ラマダーン づき は、ひとびとの みちびき として、また みちびき の めいはく な あかし と きはん として クルアーン が くだされた つき。それゆえ あなたがた の うち、その つき に たちあつた もの は さいかい しなさい。」<sup>1</sup>

あいすべき よげんしや <sup>2</sup> は、マスジド・ナバーイー の ミンバル に あがり、ウンマ に かたりかけました。「あなたがた は しゅくふく の ラマダーン づき を むかえた。ぜんのう の アッラー は、この つき に さいかい する こと を あなたがた の ぎむ と された。この つき、てんごく の もん は ひらかれ、じごく の もん は とじられ、はんぎやく の あくま たち は くさり に つながれる。」<sup>2</sup>

しんあい なる しんこうしや の みなさま！

ラマダーン は、さいかい と クルアーン の つき で あり、にんたい と かんしや、くいあらため と ないせい の つき です。この つき には、せん の つき に も まさる 「みいつ の よる (ライラト・アル=カドル)」 が あります。よげんしや <sup>3</sup> によると、ラマダーン さいしょ の よる、てんし たち は こう よびかけます。「ぜん を もとめる もの よ、すうはい と ほうし に きなさい。あく を もとめる もの よ、つみ を すてなさい。」<sup>3</sup>

きょうだい、しまい の みなさま！

さいかい の なか に こそ、ラマダーン の いみ が あります。さいかい は、にんたい と いし の ちから、そして じひ を やしなう たんれん です。「しんじる もの たち よ。あなたがた いぜん の もの たち に も さだめられた よう に、あなたがた の ため に さいかい が さだめられた。それで あなたがた も、おそれる もの と なる だろう。」<sup>4</sup> この しよう は、さいかい の もくてき が、わたしたち を あく と つみ から まもる こと で ある と しめして います。アッラー の しと <sup>5</sup> は こう かたりました。「さいかい は たて で ある。さいかい する ひ は、わるい ことば を くち に したり、こうろん したり して は ならない。もし だれ か が ちようはつ したり ぶじょく したり した なら、『わたし は さいかい して いる』と いいなさい。」<sup>5</sup>

しんあい なる しんこうしや の みなさま！

ラマダーン は、わたしたち の いのち の しょ で ある クルアーン の けいじ が はじまつた つき です。クルアーン は アッラー の みことば で あり、「もつとも うつくしい ことば」<sup>6</sup> です。よげんしや <sup>5</sup> は こう かたって います。「もつとも しんじつ な ことば は アッラー の ことば で あり、もつとも よい みちびき は ムハンマド <sup>7</sup> の みちびき で ある。」<sup>7</sup> クルアーン は、しんばん の ひ まで、いかなる じだい に おいて も じんるい を ただしい みち へ と みちびき ます。

しんあい なる ムスリム の みなさま！

ラマダーン は、どう ほうあい と れんたい、そして わかちあい の つき です。いんしょく を たつ こと に よって、わたしたち は もたざる ひとびとの いたみ を しり、みめぐみ を たいせつ に し、かて を あたえて くださる アッラー に かんしや を ささげます。また、わるい しゅうかん を たち、あらた に ぜんりょう な ページ を ひらく とき で も あります。ぜんこう に はげみ、よこしま な ことば や こうどう を さけ、だんけつ と あいじょう、そして そんけい の きずな を つよめ ましょう。

しんあい なる きょうだい、しまい の みなさま！

じぶん の ことば と こころ、しこう、そして じんせい を、ラマダーン の び と ひとつ に しましよう。クルアーン を よみ、りかい する こと に、より おおく の じかん を さき ましょう。きずついた こころ を クルアーン の ひかり に よって いやし、いしき して さいかい を まもる よう つとめ ましょう。

きょうだい、しまい の みなさま！

れいねん と おなじく、ことし の ラマダーン も、とう ジャーミイ で は イフタール の しょくじ を ていきよう して います。「ひとりぶん、わたしたち から も ていきよう しましよう」と もうして くださる かた の ごしえん を おまち して います。アッラー の ため に ついやす こと は、いだい な すうはい で ある こと を わすれない で ください。しゅ は こう のべて おられます。「ラマダーン を すうはい の うち に すごし、こころ から しんこう し、アッラー から の ほうしよう を ねがう もの は、かこ の つみ を ゆるされる。」<sup>8</sup>

しゅ が わたしたち ぜんいん に、すうはい と ほうし の いしき を もって、けんこう と こうふく の うち に この ラマダーン を すごす きかい を あたえて くださいます よう に。

1 Bakara, 2/185.

2 Nasâî, Siyâm, 5.

3 Tirmîzî, Savm, 1; İbn Mâce, Siyâm, 2.

4 Bakara, 2/183.

5 Buhârî, Sawm, 9; Muslim, Siyâm, 29.

6 Zümar, 39/23.

7 Nasâî, İdeyn, 22.

8 Buhârî, İman, 27.